

頼朝武切記全六冊

馬頭山屋藤兵衛版

13
3943
1



庚寅春所版

13
3943
2



十返舎九作
春川英笑画

藤兵衛

7
8
9
90
1
2
3
4
5
6
7
8
9
100
1
2
3
4
5
6
7
8



3943
1

馬喰町山崎屋兵衛版

頼朝武切記全六冊

門 13
號 3943
卷 1

一の巻

武勇功亀鑑序

春齋英笑るる人筆を馳てゆの勇將猛士を模写せ草
史の事跡のありきを書きよと書肆錦耕堂のありに
需むるに任せ予竹馬鳩車の戯をせ昔より聞ある事ども
其儘より侍と違ひるもの多し今や太平の世にぬ
御代ありて太刀もろも袋入の草紙より猛き鎧武者の
怒る容形を児童の眼を説く笑ひ戎解の種より高
貴の将士軍勞苦戦の患難を想像し今樂居安任の身
をほりみ國恩のありきを偏し仰ぎ尊むべき事とて

十返舎一九誌



A black and white woodblock print illustration of a person in traditional Japanese clothing sitting on a tatami mat, reading a book. The person is holding a long, thin object, possibly a sword or a pipe, vertically. The background shows a thatched roof and some foliage.

[illegible]

八岐の大蛇を

退治

やうきにておんが
ふたの世にう
るりとて

武内宿禰
 大臣
 大
 宿禰



神功
 皇后
 氣長
 足姫
 〇おかげん
 こころをせん大いんよ
 りておくせいのをさる
 おとろひのうらなふ
 あらうひて二つ人をせめうち
 やらぬけりとのみのの
 ひろくをまのせしをうちあらが
 ちのめのうへーまはまつてことぶき
 二百十二さいふでそのあまるるにわたり
 のひのちをまつてうへーこころのちろらんくろり四

神功皇后
氣長足姫

〇やうげんてん
 ここのをせん太せんは
 るめておくぜのをさり
 おとろひらさるごうよ
 あらふひてニクをせめうち
 やゝぬきうとのみの
 ひらんをまのせしをうちわち
 なるめのえんーまたつうてことぶき
 二百十二さいまでそのおもしろい成春うばと
 ゆひのちままだうてんくまひいのちうんくう四

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or name, oriented vertically.

◆あつとひた きんぎょや を

五月
 先月より
 つてのまゝ
 きつておる
 とぞ
 きて
 へ



● ① 物由さき



This is a woodblock print illustration of a tiger, likely from a Japanese natural history or zoology book. The tiger is depicted in a dynamic, crouching pose, facing left. Its fur is rendered with dense, textured lines, and its tail is thick and curved upwards. The tiger's paws are large and detailed with claws. The background includes stylized bamboo stalks and foliage.

The illustration is surrounded by Japanese text in kuzushiji script. In the upper right corner, there is a column of text:

 こゝろといふ
 りきつまつたの
 こゝろこゝろを
 つんきんを
 いを
 うんえ
 せう

In the lower right corner, there is another column of text:

 ①うのへんまのなを
 きんちやふの
 ゆきぢやふの
 まじのそふい
 いのつあふ
 うんえ
 きんちのへんま
 うんち
 まじやふの
 えんちの
 ちん

うつらんぬあのかぞのう
 きんちやふゆるまを
 ゆきこひおちぎ
 まことのそらういせう
 いそりつかか
 うろくえんしやう
 キヌのへんち
 ろさるゝとた
 あかりていきかう
 え年の
 しろとわ

とくせんやううつまた
ふそうやうてふつら
そらまうちたをまの
いきなりあまぐりてえ
せのもあやうくまをの
ぐくまをれよりてせん
やたうさごうさう
あらへんをわいの
どけあを
きうかて

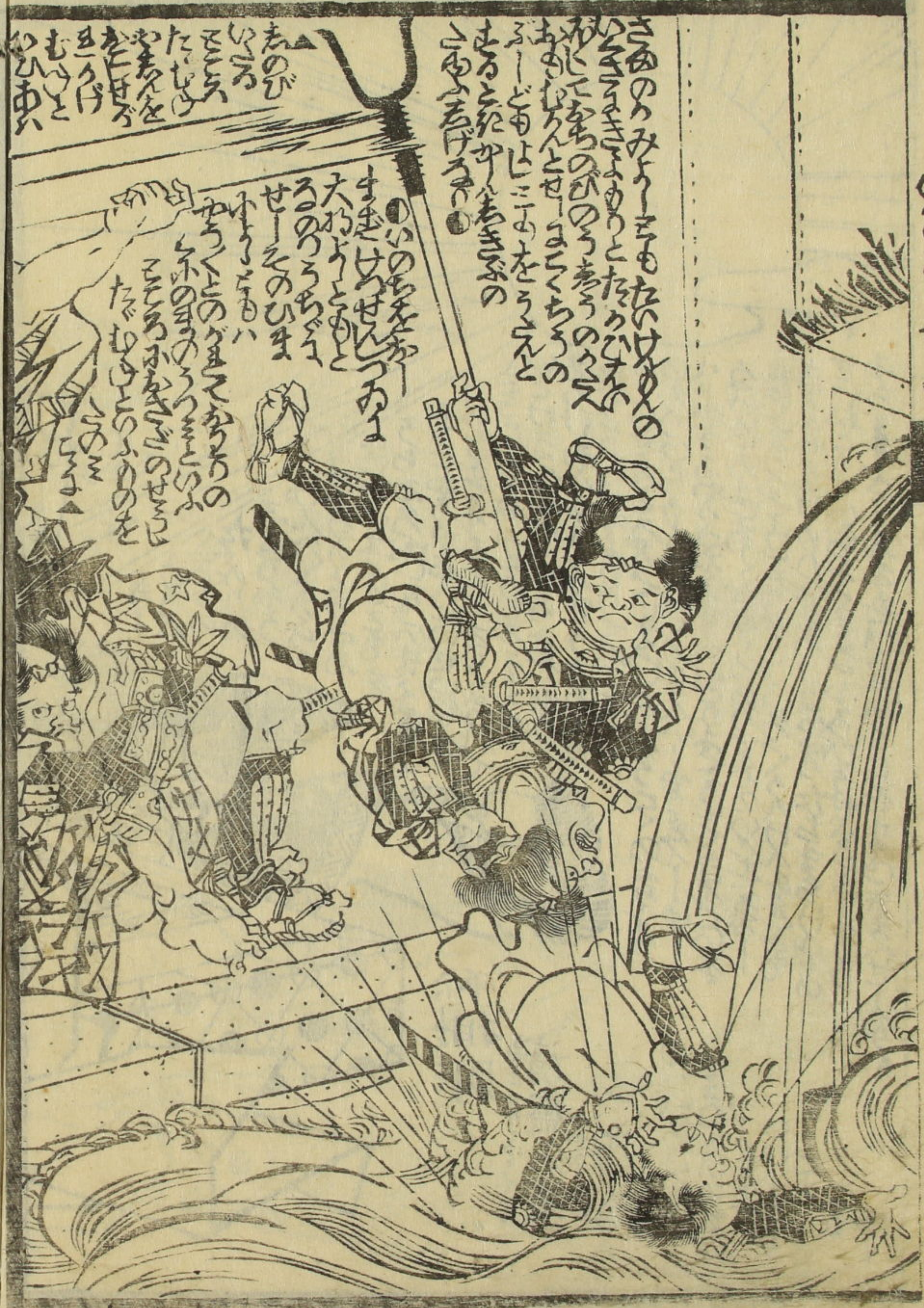
國姓爺 鄭成功 勇力 手自 虎を討 斃す

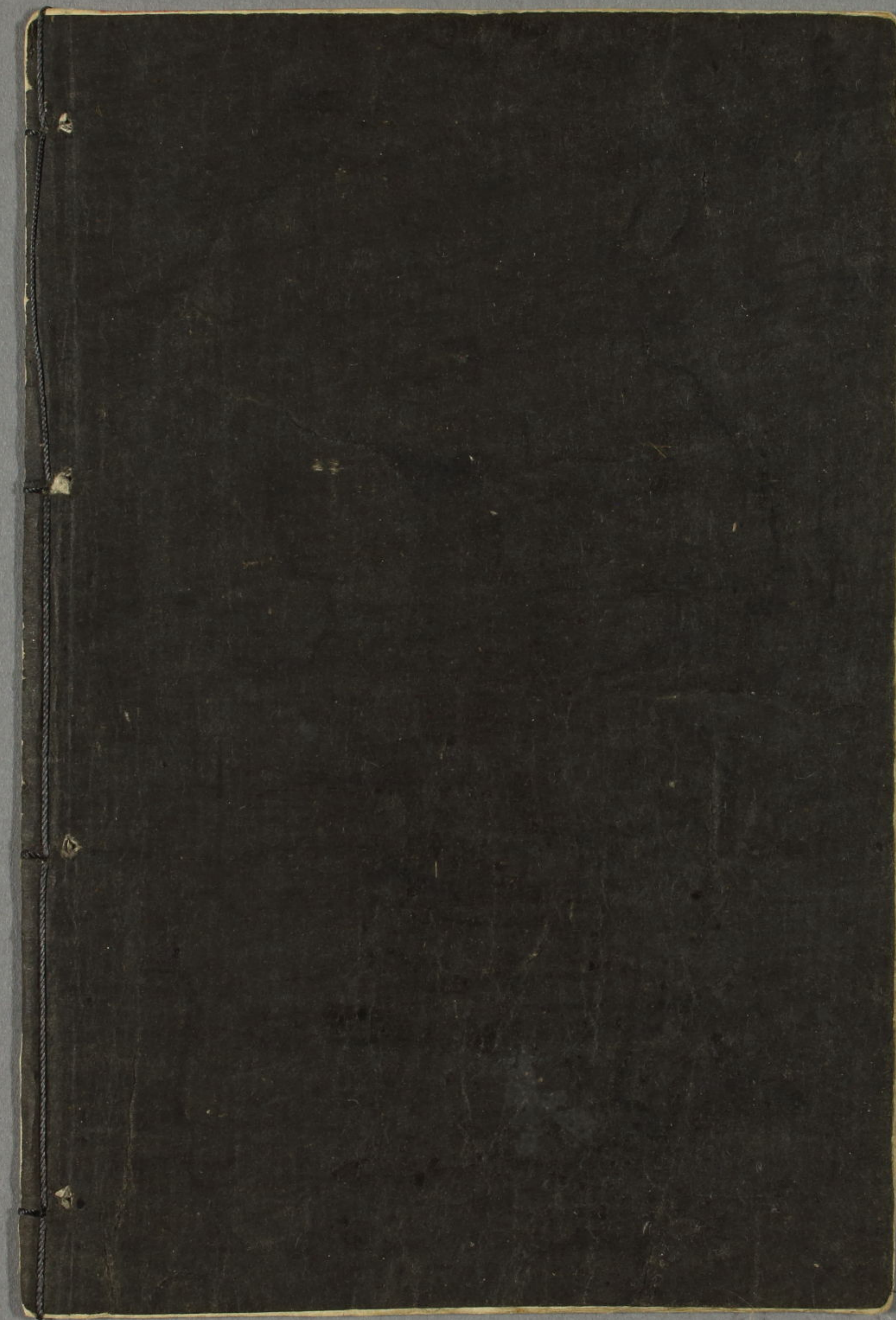
一万度御板

五ノ下

さぬのりみよりきもたのけぬの
かきうききよりとたかひすあ
かしてあのかのうかうのうえ
おもむくとせよはてちうの
ふーどもはこゝをううと
よふとたかきききき
こゝをううの

山のちをさへ
 まさけのせじつあふ
 大およりとめと
 ろのうらちと
 せーそのひま
 小うらちもハ
 かうくとのがまてわちちの
 くのうのうらちとひま
 こそあふなをこのせまじ
 たむひとのふみのを
 うらち
 いま







門 13
號 3943
卷 2

せうともの
よくあつたは
りたるに
えをうけ
てうけしき
ちまたせいの
まじりを
ゆへにはとも
をうくえいま
はともひり
とらふてのう
むんとたふさ
けともうせいの
うめをうけれ
るゝあまの
ぎやく

あんのちい
よりのもの



長田の
逆心左馬
頭義朝を
浴室に
討んとす



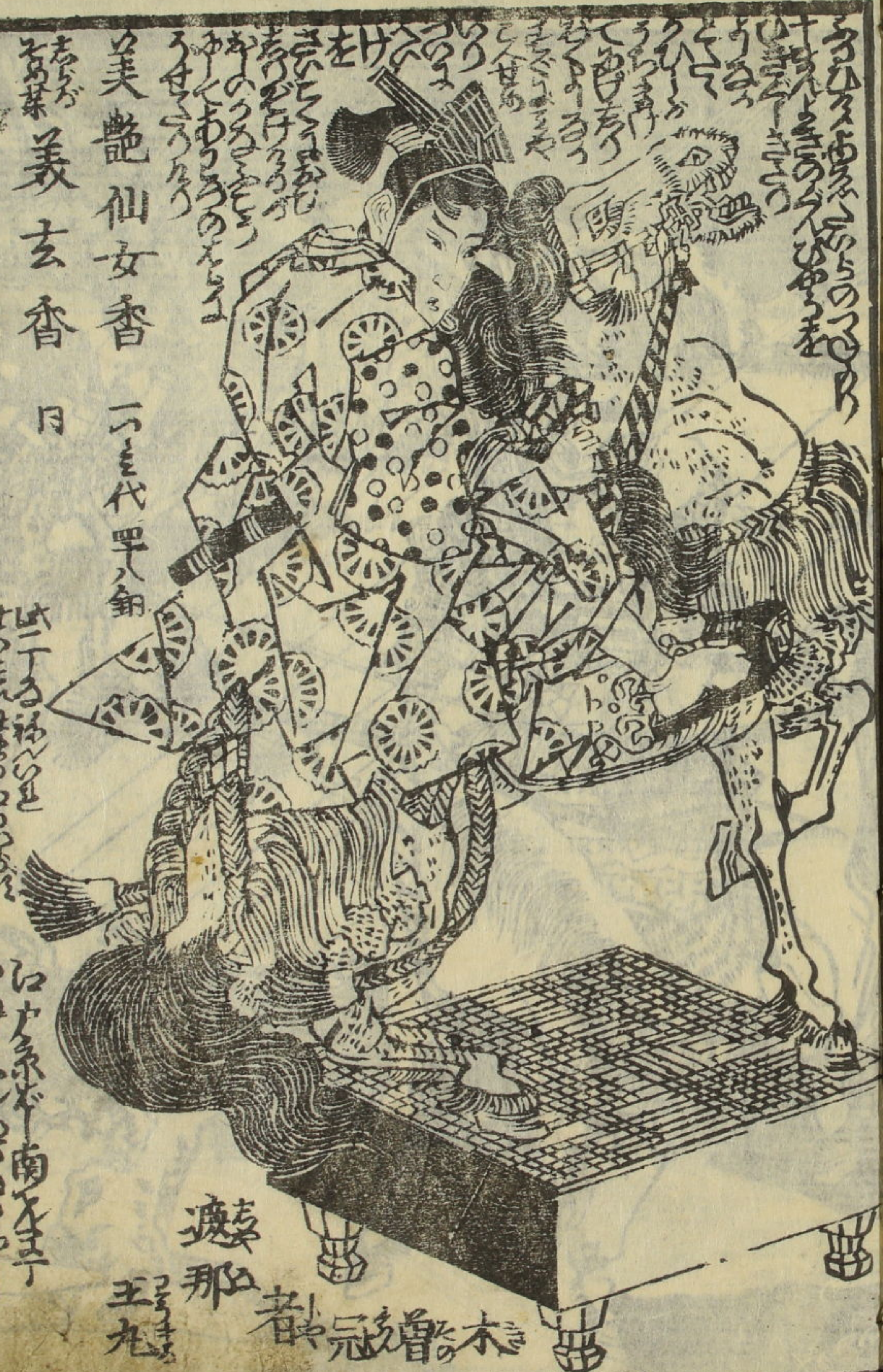
丸 郡

● ちんちん丸
ちんちん丸
ちんちん丸
ちんちん丸
ちんちん丸
ちんちん丸
ちんちん丸
ちんちん丸

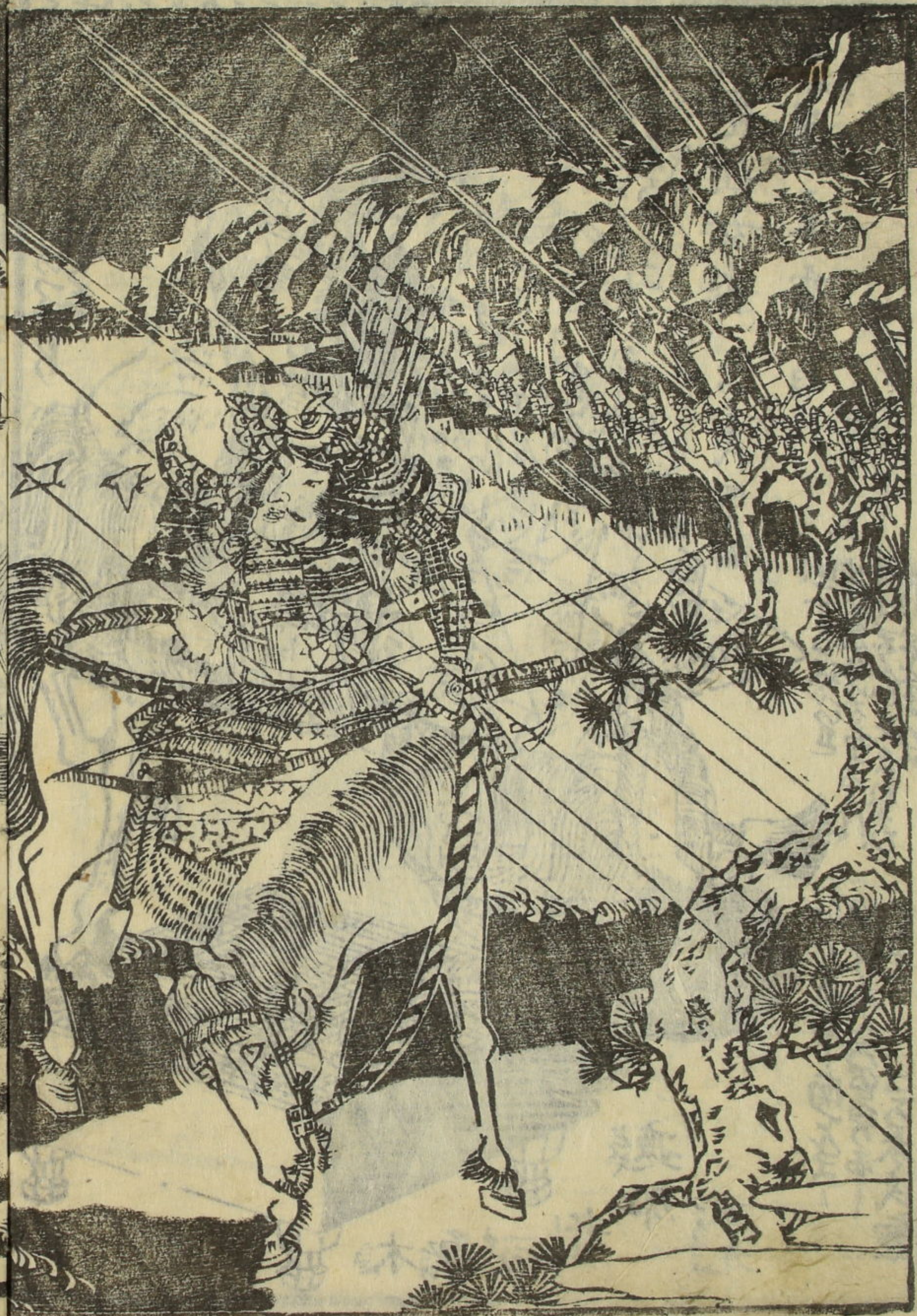
熊坂

長子範

[illegible]



卷之五



ひま井のろくろ

をの子より

老人の心と主と

合の太極老

夏五山

江戸の型を以て

るやひちをる

谷口より北へ

ありのありを

ありとさう

三

卷之八

卷之五

ふりて弑ま

老

この分せいよ

五世のち

るものなり

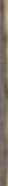
このまゝひよる

もろみ

のちをえりて

方名

...

[illegible]

今井

四
郎

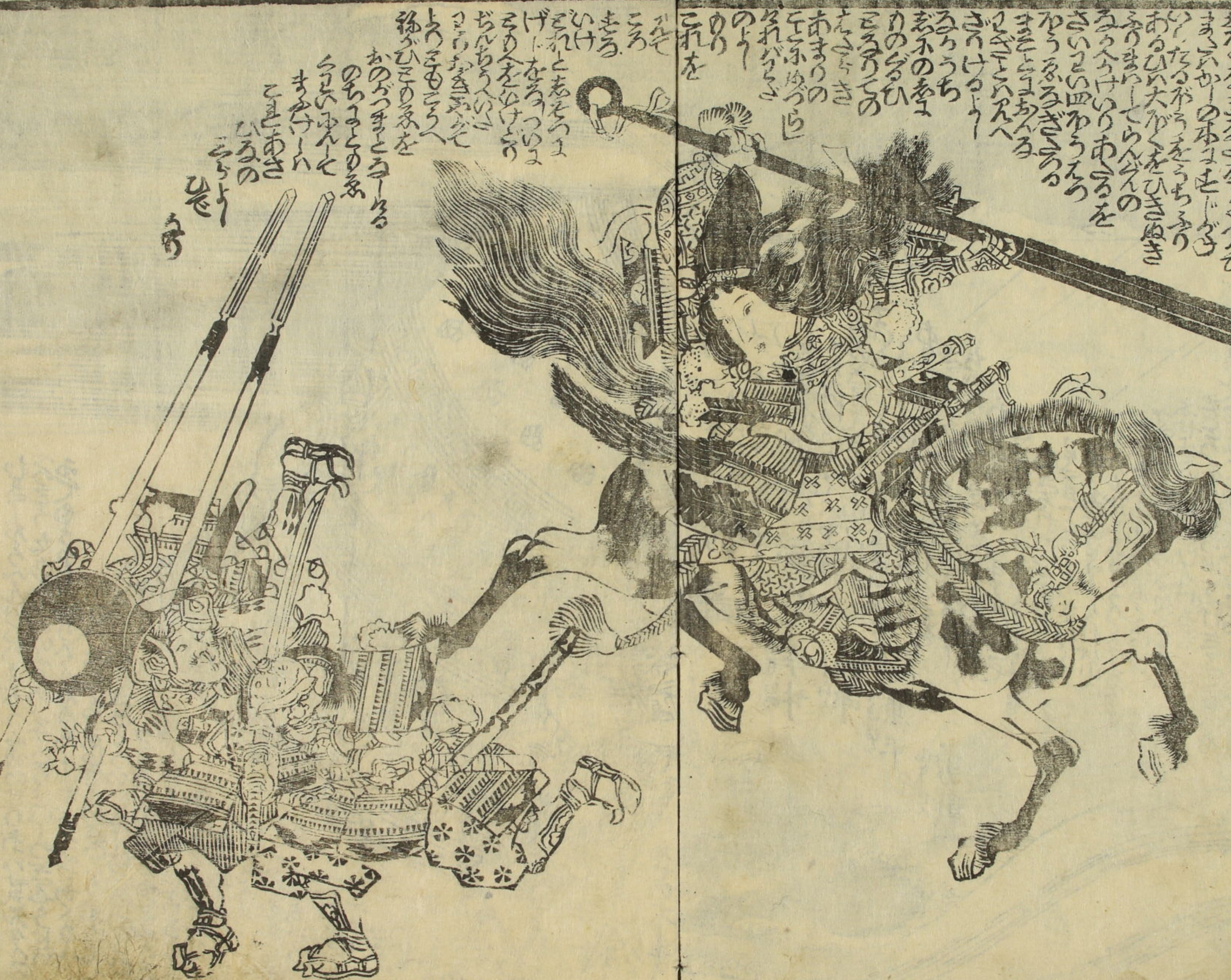
兼平

勇戰

るうち
おののき
いのさむ
こころを
なごき
あまりの
そふくは
だれがさ
のり
これを



巴御前
力戦



りて
 こゝろ
 まる
 いけ
 それと志そのま
 げになつたよ
 その心をゆけり
 ぢんちやうのこ
 こらおまをそへ
 うのともころへ
 孫がひこの系を
 かのかつまとくろなる
 のあふとの系
 うみのみんと
 まかけん
 こまあさ
 ひなの
 そらより
 ひき



ちんちんのひもたのひせのあつらんぬう
 ちんちんきうちのちんちんきうちのちんちん
 きあうちのちんちんきうちのちんちん
 たりこのちんちんきうちのちんちん
 られこのちんちんきうちのちんちん
 やちとたうちのちんちんきうちのちんちん
 りとたうちのちんちんきうちのちんちん
 うちとたうちのちんちんきうちのちんちん
 どちとたうちのちんちんきうちのちんちん

忠
度

寬勇

英竹天画

